

## 「三重県 心のノート」活用事例

校種	中学校	学年	3年	内容項目	4－(8)
主題名	郷土愛				
資料名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害を乗り越えてふるさとの今がある 「三重県心のノート 中学校」(三重県教育委員会)</li> <li>・「志摩市史」(志摩市)</li> </ul>				
ねらい	伊勢湾台風の被害の甚大さを知り、郷土の人々が多く尊い生命や貴重な財産を失った悲しみを乗り越えて今日の暮らしの礎を築いた先人に思いを重ね、郷土を大切にすることを育てる。				
展開	学習活動と主な発問			指導上の要点	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 導入 「災害にあつて家を失ったらみんなはどうしますか。」</li> <li>2 資料を読む。 「なぜ、1か月もかからない間に工事を終えることができたのでしょうか。」</li> <li>3 志摩町の被害を知り、当時の人の心情を話し合う。 ※志摩市史P548の伊勢湾台風の記述を読み、ここ志摩町でも被害があり、翌年のチリ津波の被害からも立ち上がったことを知る。</li> <li>4 教師のまとめの話を聞く。 ※旧越賀中学校は、越賀の人たちが、当番を組んで土地を平らにして、その上に立てた学校であった。自分たちの生活で忙しい中、作業に従事してくれたということです。伊勢湾台風で被害があった時も、住民の皆さんが労力奉仕で直してくれたそうです。【昭和34年9月26日から昭和35年2月28日】</li> </ol>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の考えを出し、資料の中に入りやすくする。</li> <li>・地域の話をする事により、より身近なものと感じられる。</li> <li>・価値を広げ印象づける。</li> </ul>	
他の教育活動との関連	防災教育				
成果と課題	「三重県 心のノート 中学校」の資料を使って故郷の祭りや故郷の課題などを考えたほうが、郷土愛に迫ることができたと思う。地域の歴史の上に私たちの暮らしがあることについての理解は、この資料よりわかったと思う。復旧にかかわった人の話が少ないため、主題に十分に迫ることができなかった。				